

はしがき

本報告書は、外務省より平成 23 年度国際問題調査研究・提言事業費補助金を受けて、「日米中関係の中長期的展望」というテーマのもとで、1 年間当研究所が行ってきた研究活動の成果を取りまとめたものである。

近年、中国の急速な経済的および軍事的台頭が、アジア太平洋地域の力関係に変化を与え、安全保障環境が大きく変化しつつある。そうした力関係の変化は、日米同盟の役割に影響を与えることも考えられる。現在の日本にとっての大きな課題は、中国の経済的・軍事的台頭及びそれに伴う安全保障環境の変化にいかに対応し、また主体的に地域秩序形成に取り組んでいくかを検討することである。

本研究プロジェクトは、以上の問題意識に基づき、当該分野に詳しい専門家を結集して、アジア太平洋地域における安全保障環境の変化、日本、米国、中国、東南アジア諸国連合（ASEAN）の政策、地域制度の役割につき多角的に分析・検討する研究会を設置し研究を行ってきた。本報告書はその成果として、研究会合での報告・討議、海外調査出張、シンポジウムでの意見交換などで得られた知見をもとに、日本の外交・安全保障政策をより有効なものとするための政策提言の一助とすべく「調査報告書」としてまとめたものである。

なお、ここに表明されている見解はすべて個人のものであり当研究所の意見を代表するものではない。しかし、本研究成果が日本の外交政策の将来を考える上での意義ある一助となることを心から期待するものである。

最後に、本研究に真摯に取り組まれ、報告書の作成にご尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表したい。

平成 24 年 3 月

財団法人日本国際問題研究所

理事長 野上 義二

研究体制

主査：	山本 吉宣	PHP 総研研究顧問 東京大学名誉教授 青山学院大学名誉教授
委員：	梅本 哲也	静岡県立大学国際関係学部教授
	大橋 英夫	専修大学経済学部教授
	大矢根 聡	同志社大学法学部教授
	神谷 万丈	防衛大学校国際関係学科教授
	菊池 努	青山学院大学国際政治経済学部教授 日本国際問題研究所客員研究員
	佐々木 卓也	立教大学法学部教授
	高木 誠一郎	日本国際問題研究所研究顧問
	中山 俊宏	青山学院大学国際政治経済学部教授 日本国際問題研究所客員研究員
	山影 進	東京大学大学院総合文化研究科教授
	リザール・スクマ	インドネシア戦略国際問題研究所長
委員兼幹事：	浅利 秀樹	日本国際問題研究所副所長兼主任研究員
	福田 保	日本国際問題研究所研究員
	松本 明日香	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	高澤 洋志	日本国際問題研究所研究助手

目 次

序 章 日米中関係の中長期的展望

- パワー・トランジッション（力の移行）の中の日米中関係 山本吉宣 …… 1

第一部 パワー・トランジッションと国際関係の変容—理論と歴史の視角から

第一章 国際政治理論のパワー・トランジッション

- 日米中関係へのインプリケーション 神谷万丈 …… 11

第二章 ねじれ（不整合）の時代の米中関係と日本

- 距離とサイズの国際政治学 山本吉宣 …… 31

第三章 20世紀アメリカの中国政策の展開とパワー・トランジッション

- 歴史的視点にたつて 佐々木卓也 …… 65

第二部 パワー・トランジッションの中の日米中

- 第四章 日米同盟に対する中国の認識と対応—冷戦後の展開 高木誠一郎 …… 81

- 第五章 中国経済の台頭と日米中関係 大橋英夫 …… 91

第六章 中国の擡頭と米国の外交・安全保障政策

- 「アジア回帰」の背景 梅本哲也 …… 109

第七章 アメリカにおける中国のイメージ再考—「台頭する中国」を

- アメリカはどのように対象化しているか？ 中山俊宏 …… 127

第八章 大国を「飼い慣らす」ことをめざす小国の戦略

- 東南アジア諸国連合（ASEAN）の影響力に焦点を当てて 山影進 …… 139

第九章 US-China-Japan Trilateral Relations

- A View From Southeast Asia Rizal SUKMA …… 155

第三部 パワー・トランジッションとアジアの地域制度

第十章 東アジア・アジア太平洋地域制度とパワー・トランジッション

- 台頭する中国をめぐる地域制度の重層的空間 大矢根聡 …… 167

第十一章 北東アジア安全保障複合体と地域制度

- 六者協議の課題と展望 菊池努 …… 185

第十二章 東南アジアにおける米国と中国の軍事ネットワークの比較

- パワー・トランジッションと軍事的連携バランス 福田保 …… 207

第十三章 日米中および ASEAN 諸国の国際世論

- パワー・トランジッションと相互認識の変化 松本明日香 …… 229